

世界とのかかわりの始まり

新型コロナウイルス感染症の取扱いが今年5月8日より、季節性インフルエンザと同じ5類感染症となりました。このウィルスが世界中で流行し始めてから3年余りの間に様々な研究や医療データが集まり、診断法や効果的な治療方法が見出されてきたことで、この措置が取られました。これを機に、この半年間ではそれ以前とは見違えるように人の往来が増え、外国からの訪問客の姿もコロナ禍前を上回るのではという勢いとなっています。

新型コロナウイルス感染症の流行がオンラインによる会議システムの急速な発達と普及を促してきた一方で、インターネットが普及した時代においてもやはり人は自分の目で見聞きし、相手と直接対面しながら意思疎通を図ることを基本的に求めていることに、あらためて気づかされます。

我々はこの熊本の地においても日常的に世界中の情報が飛び交い、国籍の異なる人々と出会い、一緒に仕

事をしたり、生活したりすることが特別のことではなくなりつつあります。そこで、近い将来に向けて、本学の学生の皆さんには、外国語を今まで以上に学ぶことを強く薦めます。

その一環として、本学では今年から12月に、2年生全員にTOEIC® IPテストを受験していただくことを求めます。英語で外国人と臆することなくコミュニケーションを取れるようになることが、各自の内なる国際化への第一歩であり、近未来の社会に必須のこととして求められることの1つでもあります。学生の皆さんには、是非とも積極的に取り組んでいただくことを願う次第です。

熊本の地において世界と向き合い、直接的に関わりを持ちながら、地球レベルの広い空間の中で生きていく。学生の皆さんにはもっと、もっと、広い世界を見て、感じて、明日の時代を見つめてほしいと願っています。

